

事例

子育てを支援する情報活動

さがみ愛育会（神奈川県） 〒229-0006 神奈川県相模原市淵野辺1-16-5 TEL 042-752-2123

活動の概要

保育所という事業体に、専任の情報担当を配して、利用者や地域社会とのコミュニケーション活動の活性化を目指しています。ちなみに情報活動といえば、①公的事業体としての開示義務や②選択する手がありとしての情報もありますが、ここでは主に子育てを支援する情報として位置づけています。とにかく子どもを生んで育てるという営みが、生命の灯を伝えていく崇高な行為が、かけがえのない素晴らしいことであることを確認する活動です。

法人の概要

戦後いち早く、保育所を起点として誕生した法人ですが、やがて地域の多様なニーズに応じて、先駆的開拓的な様々な事業を实践してまいりました。とりわけ、通常保育所に併設する高齢者デイサービスセンターや知的障害者更生施設、さらには夜間保育所との複合効果を目指して日常交流を推進しています。即ち、1プラス1が3にも4にも5にもなるように処遇面のみならずコストマネジメントを意識した取り組みであります。さらにそこから、児童、高齢者、障害者という属性分野の各論を廃し、地域福祉の視点から家族援助の姿勢を重視することを目標としています。

●経営施設数…6

●法人全体の年間事業収入…920,931千円

●主な経営施設

淵野辺保育園	昭和23年設立	定員235名
すこやか保育園	昭和44年設立	定員210名
悠々デイサービスセンター	平成8年設立	定員25名
知的障害者更生施設のびやか	平成13年設立	定員30名
夜間保育所ドリーム	平成8年設立	定員30名
学童保育センターひまわり	平成14年設立	定員60名

実施施設の概要

●施設名…淵野辺保育園

●施設種別…定員235名

施設の運営方針

“いっしょっていいね”をキーワードに、ふるさとのイメージが湧いてくるような自然を生かした環境構成や温かさへのこだわりを大切にしています。愛の精神を基盤に地域の福祉ステーションを目指しています。

活動の内容

●活動対象者…地域社会の乳幼児を育てる家庭

●活動の頻度…常時

●年間延利用者数…不特定多数

●活動開始年…昭和63年

活動開始の背景（取り組みの経緯）

開園40年を契機に生まれた地域育児センターですが、それまで推進してきた行政主導型の保育から、「地域に根ざす」という価値観を重視するきっかけになりました。それらは新たな事業を加算的に追加するのではなく、地域の在宅見家庭の親子に子ども社会や子育て社会に所属

することを保証するとともに長年蓄積してきた保育のノウハウを開放することにあります。それゆえこの子育て支援活動の一環として大きなウエイトを占める情報活動は、人と人をつなぐコーディネーターを目指しています。同世代同士のコミュニケーションの活性化は、追体験であったりこれから起こりうる問題として捉えるなど、共感関係を促進し、育児エンパワメント効果が期待されるからです。

■人材・資金面等での工夫、苦慮

例年、情報担当は園長や主任等の管理職とせず、あえて若手中心の専任職を配置しています。なぜなら管理職のバイアスがかかった片手間作業よりも、同じ世代のコーディネーターの方が心をオープンにできるからです。

その上で、情報担当を含めた地域育児センター担当職員は、併設する学童保育センター職員を兼務する体制をとっています。夏休みや冬休み等を除く午後の時間帯までは、地域の子育て支援活動の領域に専念できる条件が保証されているからです。それゆえ、担当4名のうち2名を学童保育センターに出向させるなど事務的な配慮をしていますが、いずれも地域活動の一環として、相互的な関係が活性化しています。

■利用者の声、地域の反応

情報担当の主な役割といえば、3カ月ごとに発行する、育児と介護の情報誌「であいふれあいめぐりあい」と隔月発行のミニ情報誌「いきいき子育て」の発行配布、すくすくメールや子ども図書館、情報掲示板やインターネット情報があります。特にボランティア4名に委嘱した子育て情報委員の役割は重要で、毎月の例会では「いきいき子育て」の誌面構成を話し合い、分担執筆をしたり、取材をする等、情報掲示板

や子ども図書館の活用を含め、モニターのように活躍していただいています。そこから双方向的に、みんなが育児情報を出し合い、それを共有しあう喜びが、自然に定着する手応えを感じています。

■活動の成果、地域の影響、今後の課題

ちなみに情報といえば、未だ公開されていないことをお知らせする周知活動と考えられがちですが、それ以外に例えみんなが参加して承知していることでも、あらためてコメントをつけて掲示することにより共感関係がさらに深まる手応えを感じています。情報の情は日本人のもつ人情とすれば、報は報いるという応答的な関係です。それゆえ情報といっても大量の印刷物や高度なハイテク技術にとらわれることなく、人と人をつなぐ役割に徹する姿勢を重視しています。